

新春を迎えて 組合基盤拡充で更に活動強化



関西配管工事業協同組合
理事長 庄司 真之

旧年中は、当組合の諸活動に何かとご指導、ご鞭撻を賜り有り難うございました。本年も変わりませず、宜しく願い申し上げます。

当組合は、設立以来「技能の伝承と若手技能工の育成・教育」を主目標に活動を続けて参りました。これからも引き続き「外国人を含めた若手技能工の育成・教育」を柱に活動を続けて参ります。皆様方の更なるご指導、ご協力をお願い致します。

昨年はアメリカのトランプ大統領に世界中が振り回された一年でした。相手の国の力を見て、足元を見て、脅しを掛け交渉をする。物事全て「ディール、ディール、ディール」の極端なまでの「自国第一主義」。世界中を大混乱に陥れました。国家間の交渉である外交において、本当にこのようなことが許されるのか、正直驚きました。世界で最も力のある国、アメリカのリーダーの行動とはとても思えません。もう少し世界を俯瞰的に捉え、「寛容の精神」を持って行動して欲しいものです。今年も、トランプ大統領に振り回されそうです。

また、世界ではロシアとウクライナの戦争がいまだに続いており、イスラエル・パレスチナ問題もなかなか完全には収束しません。私達の日本におきましても、首相の「台湾有事の際の

発言」に端を発した中国の挑発が続き、戦争という言葉が絵空事ではないような状況にもなってきたており、非常に心配です。日本としては、挑発に乗ることがなく、冷静な判断をすることが必要です。

人間とはつくづく愚かな生き物だと思います。平和はそこに存在するものではなく、お互いが知恵を出し合い全力で作ります。今こそ自分自身の命を守るために、生活を守るために各人・各人が責任ある行動をすべきだと思います。昨年は、「大阪・関西万博」が4月から10月にかけて大阪の夢洲で開催されました。大阪での開催は55年ぶりです。万博開催前は、様々な「負」の問題が指摘されておりましたが、開けてみますと日本国内はもとより、世界中から多くの人が訪れ、成功裏に終えました。大阪・関西の魅力の世界に向けてアピールすることができました。今後は、万博がきっかけとなり、新たなビジネスチャンスが生まれ、大阪が、関西がより発展することを期待しております。

組合活動については、昨年は、親団体である日本配管工事業団体連合会の総会が7月18日に大阪で開催されました。北海道から九州までの全国の仲間が大阪に集まりました。翌19日に

は「大阪・関西万博」の見学と親睦ゴルフを実施し、関西配管工事業協同組合の結束力の強さを全国の仲間にも再認識してもらえたのではないかと自負しております。

また、当組合が主導提唱し2022年10月に日本配管工事業団体連合会としてJAC（一般社団法人 建設人材機構）に加入したことにより、特定技能の外国人を雇う目的で組合に加入する会社が増え、昨年末には関西配管工事業協同組合の正会員が59社、賛助会員が28社と組合員が大幅に増えました。組合員が増えることは非常に有難く、より活発な組合活動ができる状況になりました。

現在の建設業界最大の課題は職人不足です。特に若手の職人が不足しています。万博を見学した若者が建築に興味を持ち、1人でも多く建設業界に入職して頂ければと思っております。若い人が「夢と希望」を持って働ける配管業界に変えること、親御さんが自分の子供を働かせたいと思う業界にすることが、組合の目標であり、私の変わらぬ目標です。現場で汗する配管工が誇りを持って、一生を通して働くことができる、魅力ある業界づくりに邁進いたします。関係各位の更なるご指導、ご協力をお願い申し上げます。

新年賀詞交歓会開催

『午年』の飛躍を祈願



1月21日に大阪市北区のホテルモンテ大阪で新年賀詞交歓会を開催し、約90名が参集して新年の門出を祝いました。

年頭の挨拶に立った庄司真之理事長は、日ごろの組合活動への協力と交歓会参集への謝辞を述べるとともに、外国人労働者を含む若手技能工の育成教育を柱に組合事業を推進していくことを強調しました。

さらに、庄司理事長は「昨年アメリカのトランプ大統領に世界中が振り回され、新年早々にはベネズエラの大統領を拘束するなど目に余る行動で許しがたく感じている。今でも世界中では武力抗争が起こっている。今こそ国同士が知恵を出し合い、一人ひとりが責任ある行動を必要としている。国内では大阪・関西万博が半年間にわたって開催され、開催前は消極的な意見もあったが、蓋を開ければ国内外の世界中の人々が大阪を訪れて盛況裡に終わった。万博がきっかけとなって新たなビジネスチャンスが生まれることを期待している」と述べました。また、



年頭挨拶する庄司理事長

組合活動については「昨年は親団体の日本配管工事業団体連合会の総会が7月に大阪で開催された。全国の我々の仲間が集い、翌日の大阪・関西万博の見学や親睦ゴルフも含めて当組合の結束力を全国の仲間に表示せたと自負している。当組合はJAC（建設技能人材機構）に加入し、それにより、特定技能1号、2号として外国人を採用可能となり、幅広く人材を確保できるようになった。現在、正会員が59社、賛助会員が28社と組合員が大幅に増えて、より活発な組合活動ができる状況になってきた」と、引き続き人材確保・育成に取り組む考えを述べました。

建設業界については「最大の課題は人材不足、特に若手の職



小阪副理事長の司会で進行

人が足りない現状である。若い人が夢と希望を持って働ける業界に変えること。親御さんが自分の子供を働かしたいと思えるような業界にすることが当組合の目標であり、私の永遠の変わらぬ課題である。一生を通して働ける魅力ある業界づくりに邁進していく」と述べ、協力を呼びかけました。

来賓からは、大阪空気調和衛生工業協会の中川修副会長、竹中工務店の大阪本店設備部・坪本克也部長、大林組の理事で大阪本店建築事業部・宮浦晋一統括部長がそれぞれ祝辞を述べ、大阪府中小企業団体中央会の堀内雅生総務部長補佐の発声で乾杯し、和やかに交歓して親睦を深め合いました。



中小企業団体中央会の堀内氏



大阪空衛協会の中川氏



竹中工務店の坪本氏



大林組の宮浦氏

歓談が繰り広げられる中、青年部会からは藤原孝文氏がスクリーンを使用して日頃の活動や近況を報告しました。最後に朝倉博昭副理事長が「勢いに乗る関西の力で業界全体を盛り上げていきたい」と述べ、威勢よく三本締めを行い、午年の飛躍を祈願しました。



朝倉副理事長の音頭で三本締め

近畿地区で 登録配管基幹技能者講習実施

令和7年度の登録配管基幹技能者講習の皮切り（前期登録講習）として近畿地区講習が11月3日～5日の3日間、大阪市中央区のエル・おおさか（大阪府立労働センター）で実施され、東北から九州までの56名が受講しました。

登録配管基幹技能者は熟練した作業能力と豊富な知識を有するとともに、現場をまとめ効率的に作業を進めるためのマネジメントに優れた技能者でいわゆる「上級職長」として元請の計画・管理業務に参画、補佐する



ことが期待されています。

近畿地区講習では、当組合の庄司真之理事長が「基幹技能者制度を推進することで皆さんのあとに続く技能者の処遇改善、全技能者の目標になるよう社会的地位の向上に貢献すると確信している。今回の講習で合格さ

れた暁には自覚と責任を持ち、全技能者の目標となるよう職務を果たしてほしい」と期待を込めて激励しました。

後期講習は、関東地区で2月5日から3日間、東京都小平市で開講されました。

レックス工業で技術研修実施

手動ねじ切りと正しいねじ接合を修得

昨年11月15日に大阪府東大阪市のレックス工業本社工場で第26回技術研修会を実施し、受講者は1級配管技能士検定に向けた手動ねじ切りの実習やレックス工業製品の特長と正しいねじ加工法などを学びました。

開会挨拶で庄司真之理事長は「毎回、レックス工業様のご厚意でオスターを使用したねじ切りの実習を経験していただいています。貴重な機会なので有効な時間にしてもらいたい」と激励しました。

研修は、技能検定に備えて実施する12月の組合主催・受検事前講習（南大阪高等職業技術専門校）の予習を兼ねて手動ねじ切りの実習が行われたほか、レックス工業による融着工具製品紹介と施工方法、正しいねじ加工の座学・実演が行われました。

受講者は、技能検

定に必須のパイプの手動ねじ切りについてレックス工業の担当者からレクチャーを受けながら実習に臨みました。また、同工場に隣接する「レックスミュージアム」

でパイプマシンをはじめ各種配管機器の歴史などを学びました。

休憩を挟んだ後行われた座学では、正しいねじ加工やねじ接合の講習を受け、ねじ加工の実演では受講者も参加するなど貴重な体験を経験しました。



正しいねじ接合を学ぶ



毎回、レックス工業の協力で実施



レックスミュージアム見学

1級配管技能士受検対策の実技講習実施

検定想定した本格講習

昨年12月13、14日の両日、大阪府和泉市の府立南大阪高等職業技術専門校（テクノセンター南大阪）で令和7年度の1級配管技能士検定へ向けた受検対策実技講習を行いました。

実技講習は検定を想定した本格的な講習で、1級配管技能士の受検予定者19名が出席し、実

技講習では作業試験さながらの講習に取り組みました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き「材料の拾い出し・ペーパーテスト」の座学が行われ、最後に配管図から材料を拾い出して材料表を作成する練習問題試験に臨みました。

午後から実技講習に移り、玉

川義光顧問が受検に向けての心構えや実技要綱を説明した後、指導員が銅管の手動ねじ切りと銅管溶接を実演しながら作業の要点などを説明しました。

実技講習では指導員が受講者の間を細かく回って作業の指導に当たる中、受講者は切断、溶接、接着、配管組立など作業試験の課題作品作りに懸命に取り組みました。



ペーパーテスト

作業要項の説明

指導員のアドバイスを受けて実技体得



正会員・賛助会員合同懇談会開催

「組合組織のあり方」などテーマに意見交換

昨年12月4日に大阪市北区の三栄ビル3階会議室で正組合員24名と賛助会員（流通・メーカー）14名が出席し第16回合同懇談会を開催しました。

庄司真之理事長は日頃の事業運営に対し感謝の言葉を述べ「大阪・関西万博では多くの方が大阪に訪れ、文化と魅力を発信することができた。これを契機にビジネスチャンスが創出されることを願う。建設業界は、万博開催期間中全く仕事がなかったが、役所の入札など少しずつ動き出してきた。人手不足など課題は山積しているが、正しい情報を共有して備えていきたい」と挨拶しました。さらに、庄司理事長は「親団体の日管連がJAC（建設技能人材機構）の正会員になったことで特定技能外国人を受け入れている企業からの入会が1年で約20社増えて正組合員が59社となった。会員増強は、組合のパワーにつながる。誇りと希望を抱いて、組合に入ってよかったと思ってもらえる活動を続けていきたい」と挨拶しました。

懇談会では「組合の組織のあり方」や「正会員と賛助会員相



円内は挨拶する庄司理事長

互の要望」など三つのテーマを取り上げ、5グループに分かれて、それぞれの立場から意見を出し合い「タイムリーな価格改定情報の提供」、「製品の改善提案」、「製品の使用方法についての勉強会」などの意見が挙げられるなど活発に意見が交わされ、情報共有が図られました。

懇談会終了後、会場を「がんこ梅田総

本店」に移動し忘年懇親会を開催して親睦を深めました。



懇親会を開いて親睦を深めた



グループに分かれて活発に意見交換

ボウリング大会開催

昨年12月11日に大阪市北区のボウリング場ラウンドワンで組合員、青年部会員、賛助会員相互の親睦を図る目的でボウリング大会を開催し、大いに盛り上がりました。

今回で3回目となるボウリング大会は、青年部が中心となり、普段接することが少ない組合員の社員や外国人実習生たちも参加して開催し、毎回好評を得ています。

競技終了後の表彰式で入賞者には組合員と賛助会員から提供された豪華な協賛品が贈呈され、各賞が発表されるたびに歓声が上がると楽しいひと時を過ごしました。



優勝チーム



女性の参加者

大阪管工機材・設備総合展

組合出展し活動アピール

昨年9月11日～13日の3日間、大阪・南港のインテックス大阪6号館A館で大阪管工機材商業協同組合（理事長木澤利光氏）主催の「第22回管工機材・設備総合展OSAKA2025」が開催され、後援団体として参画している当組合からは19社の賛助会員が出展し、それぞれ最新鋭の技術、製品をアピールしたほか、組合もブースを設営し、組合活動などをPRして業界の地位向上に努めました。

今回はメインテーマに「管工機材フェス開幕!! 脈々（ミヤクミヤク）と未来へ継（ツ）なげ 流体テクノロジー」を掲げ、

大阪府、大阪市など19団体が後援し3日間で前回は上回る約1万8000人が来場し、盛況裡に終わりました。

当組合ブースでは、役員、事務局員、青年部会員が当番で来

場者の対応にあたりました。組合の概要や事業活動紹介とあわせ、外国人実習生も助っ人として手伝えるなど、組合・業界の存在を幅広い層にアピールしました。

また、総合展最終日となる13日には、会場内に設けられた配管作業実演コーナーを会場に建



組合ブースでは若者に配管業界をアピール

設系で学ぶ高校生・専門校生による「配管組立研修・競技会」が開催されました。この研修・競技会は、配管施工と建築設備を学ぶ学生に日頃の技能を競いながら管工機材業界を知ってもらうために企画されたもので同展では初の試みとなり、4校（大阪工業技術専門学校・大阪府立東住吉総合高校・大阪府立布施工科高校・滋賀県立彦根工業高校）から9名の学生が参加し行われました。

初めに主催者を代表し木澤理事長が挨拶を述べ、続いて、審査委員長を務める当組合の庄司真之理事長が「当組合は配管工事を専門とする工事業者の集まりで、設立以来、技能の伝承と人材育成を柱に活動しており、大阪管材組合さんとは日頃から連携を密にしている。夢と希望を抱くことができる業界となることを心から願っており、皆さんも目標を高く持って全力を尽くしていただきたい」と述べ競技がスタートしました。

来場者らが足を止め見守る中、学生らは慣れない会場の雰囲気と作業台・バイス台に苦戦しながらも温かい応援を受けて懸命に課題作品の制作に取り組みました。当組合の玉川義光顧問と池成信夫顧問



審査委員長を務める
当組合の庄司理事長



競技会の上位入賞者（後列）と実施関係者

による鋼管切断とねじ切りの模範作業と、(株)ツカサの森山道盛氏による1級技能検定作品製作実演も行われ、作品のサイズ誤差、出来栄などを審査しました。

その結果、最優秀賞に滋賀県立彦根工業高校建設科3年の松村惇暉さんが選ばれ表彰状と記念品が贈呈され見守っていた来場者から拍手がおくられました。

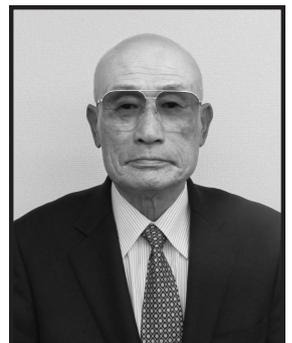
総合展出展された当組合の賛助会員は次の通りです。

▽アカギ▽イシグロ▽アサダ
▽安藤▽オーエヌ工業▽岡崎産業▽MCCコーポレーション▽カクダイ▽シーケー金属▽昭和コーポレーション▽積水化学工業▽ゼンシン▽ダイドレ▽タカラ通商▽多久製作所▽東尾メック▽ベン▽リケン▽レッキス工業



元副理事長・立花忠夫氏逝去

当組合の役員を長年務められ、副理事長を歴任された立花忠夫氏（(株)藤尾設備工業所創業者）は、昨年12月23日に逝去されました。86歳でした。慎んでご冥福をお祈りいたします。



北大阪高等職業技術専門校で

現場作業体得へ向け出前授業

昨年10月6日に北大阪高等職業技術専門校（大阪府枚方市、畑中知子校長）で建築設備科の生徒を対象に出前授業が開かれました。実際の現場での作業を体得してもらうことを目的に、配管工事で株式会社三進（当組合員）、保温工事で協進断熱株式会社（本社・大阪市）、施工管理で株式会社西原衛生工業所（本社・東京都）、の3社が講師となって授業を行いました。

同校は、地域の企業、大学と連携し、ものづくり（機械系、制御系）や建築の分野において就職に直結した訓練を行い、企業のニーズに対応した技術者の育成を行っています。

出前授業は建築設備科の吉田賢治指導員の進行のもと、現場での施工管理について西原衛生工業所の担当者がスクリーンを使用し説明。その後、グループに分かれて墨出し、配管加工、吊り込みなど実際の現場に見立てて、各講師が丁寧に指導を行いました。

株式会社三進の齊藤竜久社長は「今回初めての試みだったが、生徒



たちも真剣に取り組んでもらって、第一線で活躍している職人から教わる貴重な体験になったと思う。我々企業側も人に教えることは苦手だが、この機会で見つかさ

れることもあった。建築業界は人手不足が顕著で、職人を丁寧に育てる機関があれば無駄な離職も防げるのではないかと。今後も学校や企業、サブコンなどと連携しながらこういう場を継続して持ちたい」と話し、手応えを感じた様子でした。



大空衛「配管技能コンテスト」

玉川設備環境の高野さん優勝

当組合員から上位入賞

大阪空気調和衛生工業協会（会長北村広外志氏）主催の第15回配管技能コンテストが昨年9月27日に大阪府東大阪市の府立東大阪高等職業技術専門校（ものづ

くりカレッジ）で開催され、一般技能者、専門学校生・高校生合わせて36名が腕を競い、一般、

学生ともに女性が優勝しました。

コンテストは、次代の優秀な技能者の育成をめざし、同

協会の実行委員会が運営にあたり、参加学校の教諭らが審査委員・審査補佐委員としてバックアップ、当組合も準備や選手派遣などで参画し実施しているものです。

コンテストには現場の第一線で活躍する技能者23名（一般の部）と建築設備関連の学科を履修中の大阪府下の高等学校や技術専門学校、滋賀県の高等学校の学生ら13名（学生の部）が参加し、一般の部では1級配管技能士検定レベル、学生の部では同3級レベルの課題作品制作に

挑戦しました。

作品は寸法、出来栄え、水圧試験による検査、作業態度などで審査され、学生の部では滋賀県立彦根工業高校の女生徒・菅田ひらりさんが見事優勝し大阪府知事表彰に輝きました。

一般の部では当組合員・玉川設備環境（東大阪市）の女性技能者・高野恵さんが優勝、大阪府職業能力開発会会長賞を受賞しました。一般、学生の女性ダブル優勝は初めてとなりました。

各部門の上位入賞者は次の通り。（カッコ内は所属、敬称略）

【学生の部】

▽優勝＝菅田ひらり（滋賀県立彦根工業高校）▽2位＝三國晴（大阪府立布施工科高校）▽3位＝菅村芽生（滋賀県立彦根工業高校）▽4位＝中島蓮太郎（滋賀県立彦根工業高校）▽5位＝深美遥斗（大阪府立布施工科高校）

【一般の部】

▽優勝＝高野恵（玉川設備環境）▽2位＝岡本将光（株新栄）▽3位＝森山道盛（株ツカサ）▽4位＝伊藤裕介（株ツカサ）▽5位＝杉山貴宏（三和工業株）



一般の部で女性初の優勝を射止めた高野さん（左）ご夫妻



一般の部上位入賞者（前列）

日管連全国青年部会全国大会

部会の活動活性化模索

日本配管工事業団体連合会（日管連）傘下の各地区団体青年部会で組織する日管連全国青年部会（部会長薮下保之氏＝中国団体）の第14回全国青年部会が10月17日、宮城県仙台市のホテルグランテラス仙台国分町で開催されました。

今年は東北団体青年部会が開催担当幹事となり、北海道、東北、関東、中部、関西、九州の7団

体青年部会からオブザーバーなどを含めて約80名が参集し、青年部会活動の活性化への方策を模索しました。

一行は仙台駅前に集合し1年ぶりの再会を喜び合ったあと、貸切バスで東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市に向かい、石巻市震災遺構・門脇小学校を視察しました。同小学校は、津波火災による被災状況を残す全

国で唯一の震災遺構として、平時における訓練の重要性や避難の在り方を考えてもらうとともに、生命の尊さや自然とに生きるこの意味を改めて知ることの大切さを伝えています。

一行はガイドの案内のもと、震災直後の生々しい映像や被災した校舎の展示館をつぶさに視察し、復興の現状と取り組みなどの説明を受け、今後の巨大災害や社会環境に備えを学べる貴重な体験をしました。

この後、ホテルに移動して懇親会を催し、東北団体青年部会の熊谷忍部会長の開会挨拶に続き、日管連青年部会の薮下部会長が「4年前に青年部会長に就任して、労働人口の減少、担い手不足など建設業の重要な課題がたくさんあるなか、配管工のイメージアップを図るべく、様々な議論を重ねてきた。こういった場で、全国の皆様と貴重な時間を共有できることは大変うれしく思う」と述べ、「引き続き、前向きで謙虚な気持ちで活動に臨み、勢いと冷静さを持ち合わせて業界に貢献していきたい」と意欲を示しました。



震災遺構・門脇小学校前で

来賓からは東北配管工事業協同組合の菅原嘉祐理事長が期待を込めて祝辞を述べ、同組合青年部の大友啓副部会長の発声で

乾杯し、和やかに交歓しながら各地区の出席者紹介と活動報告が行われ、新たな議案提起なども出し合い親睦を深めました。



挨拶する薮下・青年部会長



門脇小学校で東日本大震災の被害のすさまじさを視察



挨拶する関西組合青年部の庄司副部会長と関西組合の出席者



懇親会のもよう